



## 長野県岡谷市土石流災害現場へ職員を派遣

### 消防研究センター・応急対策室

平成18年7月15日頃から、梅雨前線が中国・北陸・中部地方に停滞し、活発化した雨雲は各地に断続的に豪雨をもたらし、同月18日から19日にかけて、各地で土砂災害等による被害が発生しました。気象庁はこの全国的な豪雨による被害を受け、「平成18年7月豪雨」と命名しました。

この災害による死者・行方不明者は全国で32名となっており、最も人的被害が大きかった長野県では死者・行方不明者13名、住宅の全・半壊38棟（18年8月22日現在）に達する等、同県の豪雨による被害としては過去10年間で最大規模となりました。

消防庁では、土石流災害による大規模な人的被害が発生した長野県岡谷市に職員を派遣、調査及び消防機関の救助活動に対する支援活動を行いました。

### 1 職員派遣までの経過

7月19日8時50分頃長野県より、19日早朝、岡谷市で土石流が発生し住宅20棟が倒壊、長野県内消防応援隊が出動したとの一報が入ったことに伴い、消防庁は同県との連絡体制を強化し、県に対し情報収集に努めるように依頼しました。9時30分頃地元諏訪広域消防本部から、岡谷市土石流は湊地区と川岸地区の2箇所が発生、湊地区では活動中の消防団員を含む行方不明者が数名いるとの情報を得ました。また、長野県から、全県的に土砂災害が発生、さらに天竜川が決壊したとの情報を得たことから、消防庁では、長野県岡谷市を中心とした中中信地方で被害拡大の恐れがあると判断し、緊急消防援助隊出動を想定した情報収集体制の強化を行いました。19日早朝に出動した長野県内の消防応援部隊は、岡谷市土石流災害現場、箕輪町天竜川決壊現場へ部隊を配備するものの、継続する降雨と高速道路の通行止め、全県的な豪雨による地元管内の災害対応など、応援部隊の活動も厳しいものとなっていました。



現地指揮本部での打ち合わせ状況

7月20日12時00分消防庁では、長野県内における被害の状況、今後の降雨による被害の拡大や消防活動の危険等を考慮し、被害情報の収集や消防の活動方針の助言等の支援活動を行うため、消防庁応急対策室2名と消防研究センターの土砂災害の専門職員2名、合計4名の職員派遣を決定し、消防庁を出発しました。

### 2 岡谷市土石流災害における消防庁派遣職員の対応

7月20日16時00分頃、消防庁派遣職員は、岡谷市湊地区の土石流発生現場に到着、直ちに救助活動現場及び土石流発生場所の現地調査を行った後、現地指揮本部において岡谷市総務部長の他、消防機関の指揮者である地元諏訪広域消防本部消防長、県内応援隊隊長（長野市消防局）、警察、自衛隊と今後の活動方針等について打ち合わせを行いました。当時の被害状況は、死者5名行方不明者2名であり、現地調査結果をもとに、消防研究センターの職員から、専門的な知見にもとづき、行方不明者2名の搜索活動継続のための安全管理方法、2次災害発生の危険性等について、危険度の評価分析と活動上の安全確保に必要な助言を行うなど、以下のような支援活動を行いました。

- 現地調査による源流域の状況及びこれまでの積算雨量や降雨予測のデータ分析による土石流の再発危険の評価。
- 活動を行ううえで必要な安全管理のための土石流監視体制のための助言。
- 局地的で小規模な土石流発生危険に関する安全監視体制のための助言。
- 夜間活動における中止の判断をするうえでの要件についての助言。
- 避難勧告区域の設定や避難場所の安全確保に関する助言。
- 24時間体制で、降雨状況を継続的に確認するため、直近の



土石流発生現場上流部の調査状況



諏訪湖釜口水門事務所と連絡体制を確保し、定期的（1時間ごと）に時間雨量及び積算雨量の情報を確認。

- 広域の天気状況や土砂災害の発生危険情報を現地対策本部で常時監視するため、長野県危機管理局の協力を得て、インターネット接続可能なパソコンを現地対策本部に確保し、各機関の認識の共通化を図りつつ監視を実施。
- 現地本部に常時待機し、不測の事態への対応体制を確保するとともに、現地の降雨状況を監視。
- 21日3時30分過ぎからの降雨量の急増に伴う作業の中断等に関する助言。

21日3時30分過ぎから雨が強まり、作業中止の目安としていた基準値を超えました。現地対策本部において、活動隊の安全確保の観点から、同日4時に救助活動の中断が決定されました。その後消防庁派遣職員は雨がやんだ同日11時過ぎから、再度現場上流域等の現地調査を行うとともに、調査中の長野県諏訪建設事務所と結果の共有を依頼し、これらを踏まえて、活動再開に関する助言等を行いました。

21日17時15分、現地指揮本部において対策本部長岡谷市長岡席のもと、活動各機関による打ち合わせが実施され、諏訪建設事務所による土石流センサーの設置（22日中）を待って、23日から搜索活動を開始することが決定されました。この決定を受け、消防庁職員は、岡谷市の現場を引き揚げ、状況確認のため長野県庁等へ向かいました。

### 3 おわりに

被害の最も大きかった岡谷市を管轄する諏訪広域消防本部は、消防長を中心に、連日の厳しい活動を行いつつも、警察・自衛隊との調整等、災害現場におけるリーダーシップを発揮しており、被災地指揮者としての責務を果たされていました。また、地元消防団についても、厳しい状況下にもかかわらず鋭意活動を継続されておりました。また、長野県内各地で被害が出ているなか、県内消防応援部隊は、地元の災害対応をしつつも長野県中信地方の各被災現場へ応援出動し、県隊長の統制下、積極的な活動を行っていました。

この度の長野県の土石流災害では、緊急消防援助隊の出動はなかったものの、消防庁では、被害の状況や活動現場の危険性、活動環境の特殊性等を考慮し、消防機関の安全かつ効果的な活動を支援するために職員を派遣しました。消防研究センター及び消防庁応急対策室の派遣職

員は、現地到着直後から現地調査や今後の活動方針に助言等を行うなど、消防機関の活動支援が実施できたと考えています。

消防庁では、さまざまな災害において必要と判断される場合は、災害実態に応じた専門的知見を有する職員を現地に派遣し、情報収集・支援活動を行うこととしています。これら派遣者と各都道府県、市町村、そして消防本部・消防団との一層の連携が図れるよう、今後ともご協力をお願いします。

### 謝 辞

ここに記載した支援活動にあたっては、長野県危機管理局消防チーム、長野県諏訪建設事務所、釜口水門管理事務所、岡谷市役所の皆様のご協力を頂きました。記して感謝します。

### 長野県岡谷市土石流災害現場

